

「狂犬病予防集合注射参加の注意事項」

市が実施する狂犬病予防の集合注射会場にはたくさんの犬が集まります。そのため、不安や緊張から興奮して暴れ、よその犬と喧嘩をしたり人を噛んだり逃げ出したりすることがあります。

つきましては、集合注射参加時の注意事項をまとめましたので、来場される前にお読み下さい。

【狂犬病予防注射】

狂犬病予防注射の接種には、地域の公民館等を会場として獣医師が出向いて実施する集合注射と、動物病院で接種する個別注射の2方法があります。どちらでも接種は可能ですが、動物病院で受けた場合は、狂犬病予防注射済証(証明書)が動物病院から発行されますので必ず市役所へ持参して、注射済票交付の手続きをして下さい。(注射済票交付手数料:550円)

【注射予定日の前に】

- 注射予定日約1週間前から犬をよく観察して健康チェックをしておいて下さい。獣医師によって注射不相当・要注意とされた犬は接種を一定期間猶予します。
- 病犬や老犬、健康に不安のある犬は、事前に動物病院で健康診断を受診することをおすすめします。
なお、獣医師の診断により狂犬病予防注射を病気、老衰などの理由で猶予された場合は、獣医師より「狂犬病予防注射実施猶予証明書」が発行されるので、市役所へ必ず提出して下さい。
- 同封の問診票に犬の健康状態を正しく記入して下さい。

【集合注射の当日】

- 必要書類・費用・ウンチ袋を忘れずに持参して下さい。
- 犬の性格や健康状態を把握していて、しっかりと犬をおさえられる方が会場にお連れ下さい。
しっかり押さえて頂けない場合は、注射出来ない事があります。
- 安全のため、小さなお子さんの同行は避けて下さい。
- よその犬と喧嘩になったり人を噛んだり逃げたりしないよう、犬をしっかり制御して下さい。力の強い犬や大型犬、緊張によって攻撃的になってしまう犬の場合は、なるべく大人2名以上で来場し、1名が犬のリードをしっかり持ち、もう1名が会計をすると安全でスムーズです。
- 不安や緊張から攻撃的になってしまう犬には口輪を使用して下さい。
- 首輪や胴輪からぬけて犬が脱走しないよう注意して下さい。長く伸びるリール式リードはストッパーをきちんとかけて下さい。

【注射の受け方】

- 犬をしっかりおさえて下さい。首またはお尻に注射するのが基本ですが場合によっては その他の部位に注射します。注射の効果はどの部位でも変わりません。
- 安全で確実に犬をおさえるためには犬の首と頭、胴体をしっかりおさえます。犬が頭を振ったり胴体を反らして、もがいたりしないよう注意して下さい。
- 犬がじっとしていれば注射は短時間で済みます。注射が終わったあとも犬が暴れないようによく注意して下さい。
- 飼い主自身が犬に咬まれないよう十分に気をつけて下さい。

【注射後の注意】

- 注射後、まれに一過性の副反応（痛み、元気・食欲の不振、下痢又は吐き気等）や、過敏体質の犬では、まれにアレルギー反応（顔面の腫れ、痒み、じんましん等）又はアナフィラキシー反応（アナフィラキシーショック）【脱力、貧血、血圧低下、呼吸速迫、呼吸困難、体温低下、よだれ、ふるえ、けいれん、尿失禁等】が起こることがあるので、注射後しばらくは観察を続けて下さい。
(アナフィラキシー反応は、注射後30分までに現れる場合が多く見られます。)
- 注射当日から2、3日間はなるべく安静にして、過激な運動・交配・入浴等は避けて下さい。
- 他のワクチンを注射する場合は、獣医師と相談の上実施して下さい。
- 注射後なんらかの異常が認められた場合は、すみやかに動物病院に相談して下さい。

【鑑札及び注射済票について】

- 飼い犬が登録されている証である鑑札(生涯に一度)及び狂犬病予防注射を実施した証である 注射済票(毎年)は常に飼い犬につけておくことが法律で定められています。鑑札や注射済票は首輪や胴輪に着けておくと迷子札にもなります。外れて紛失しないようしっかりと着けて下さい。
- 鑑札や注射済票を紛失した場合は再交付の手続き(有料)ができます。

【ふだんからしつけを】

- 犬が不安や緊張から興奮して暴れたりしないよう、ふだんから犬を制御できるようしつけをしておいて下さい。
- 抱っこできるサイズの犬は抱っこを嫌がらないように慣らしておくこと注射の時、抑えるのが楽です。
- 注射の時にどうしても暴れてしまう犬には危険防止のため口輪の使用をおすすめします。ふだんから口輪に慣らしておいて下さい。